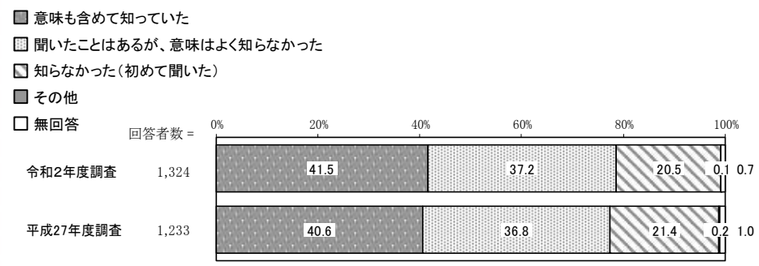
【概要版】男女共同参画及び女性活躍推進に関する市民意識調査結果

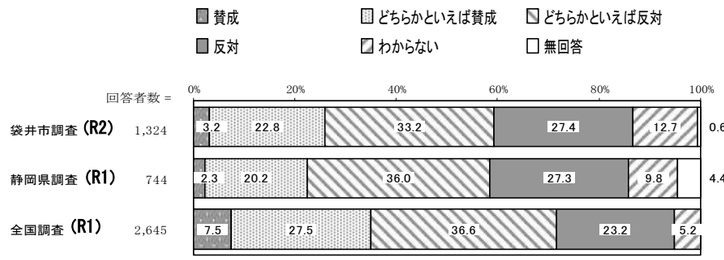
◆男女共同参画社会の認知度【問7】

男女共同参画社会という言葉について、「意味も含めて知っていた」が41.5%と最も高く、次いで「聞いたことはあるが、意味はよく知らなかった」が37.2%、「知らなかった（初めて聞いた）」が20.5%となっています。



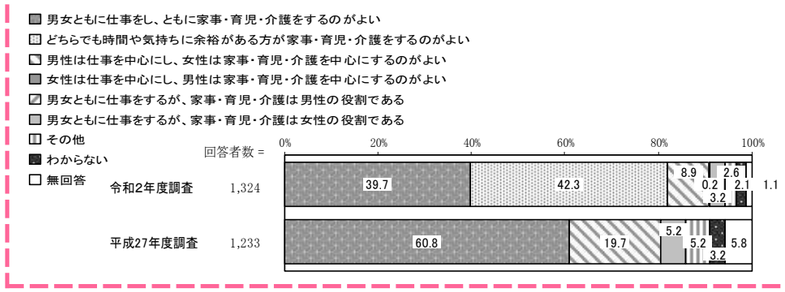
◆男女の役割を固定的に考えることに関する意識【問8】

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考えについて、「賛成」と「どちらかといえば賛成」の賛成派が26%、「どちらかといえば反対」「反対」の反対派が60.6%となっています。性別でみると、女性で反対派が多くなっています。



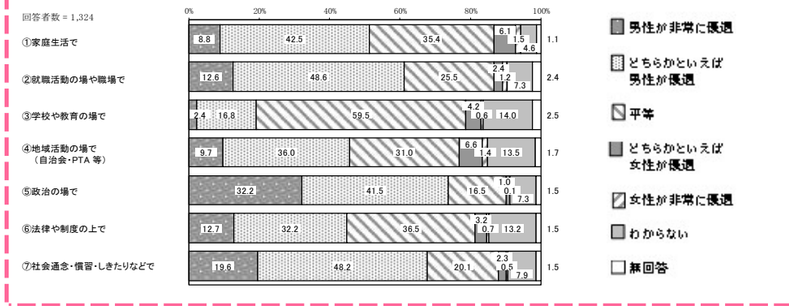
◆家庭での男女の役割分担に対する考え方【問9】

「どちらでも時間や気持ちに余裕がある方が家事・育児・介護をするのがよい」が42.3%と最も高く、次いで「男女ともに仕事をし、ともに家事・育児・介護をするのがよい」の割合が39.7%となっています。（「どちらでも時間や気持ちに余裕がある方が家事・育児・介護をするのがよい」の選択肢は、令和2年度に追加）



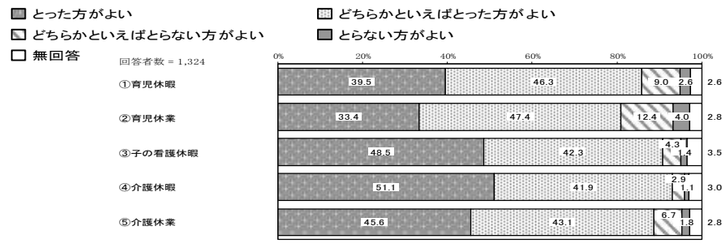
◆各分野での男女平等感【問10】

③学校や教育の場では「平等」と感じる割合が高く、それ以外の分野（特に⑤政治の場、⑦社会通念など）では、男性が優遇（男性が非常に優遇、どちらかといえば男性が優遇）と感じる割合が高くなっています。



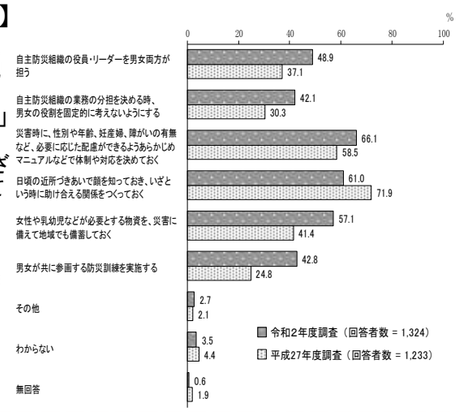
◆男性の育児・介護休暇等の取得【問12・13】

すべての休暇・休業で「とった方がよい」「どちらかといえばとった方がよい」が8割以上、特に③子の看護休暇、④介護休暇、⑤介護休業では、約9割となっています。
一方、男性の育児休暇等が進まない理由は、「職場の理解が得られないから」、「男性は仕事、女性は育児・家事をすべきという風潮（取りにくい雰囲気）があるから」が高くなっています。



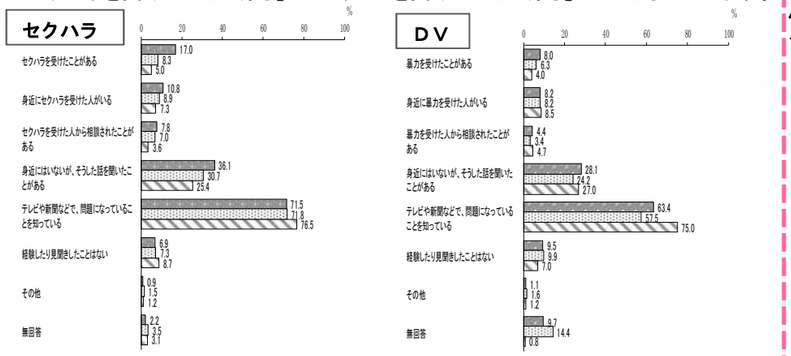
◆災害に強いまちづくり【問16】

「災害時に、性別や年齢、妊産婦、障がいの有無など、必要に応じた配慮ができるよう、あらかじめマニュアルなどで体制や対応を決めておく」が66.1%と最も高く、次いで「日頃の近所づきあいで顔を知っておき、いざという時に助け合える関係をつくっておく」が61%となっています。
なお、性別でみると、前回に比べ、「女性や乳幼児などが必要とする物資を、災害時に備えて地域でも備蓄しておく」が女性で大幅に増加しています。



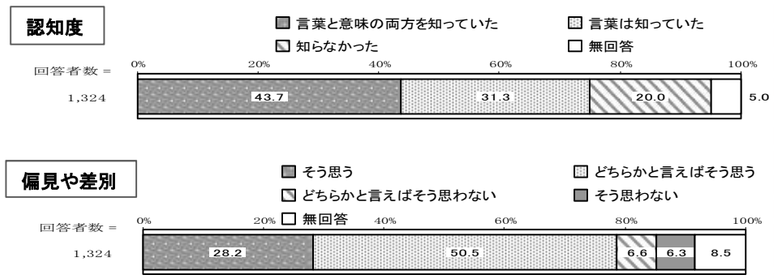
◆人権（セクハラ・DV）の経験【問17・18】

「セクハラを受けたことがある」は17%、「DVを受けたことがある」は8%となっています。



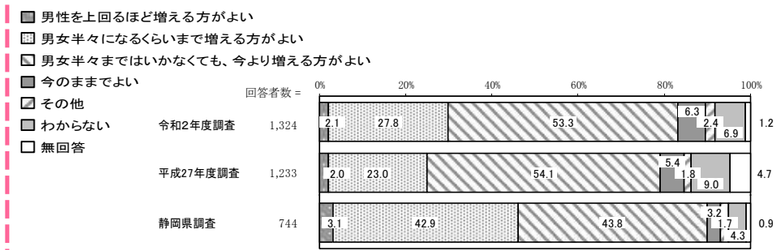
◆LGBTなど性的少数者の認知度【問19】

性的少数者（性的マイノリティ）の認知度は、「言葉と意味の両方を知っていた」が43.7%、「言葉は知っていた」が31.3%となっています。また、性的少数者にとって、偏見や差別などの人権侵害により、生活しづらい社会だと思う人が多くなっています。



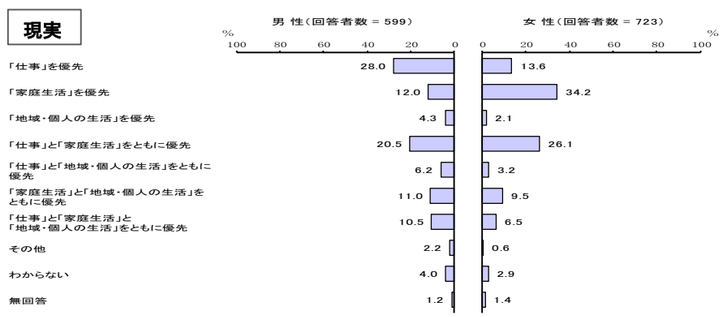
◆政策・方針決定過程への女性の参画【問22】

全体で「男女半々まではいかなくても、今より増える方がよい」が53.3%と最も高く、次いで「男女半々になるくらいまで増える方がよい」が27.8%となっています。
また、本市の政策決定の場に女性が少ない理由は、「女性の参画を積極的に進めようと意識している人が少ないから」「男性優位の組織運営だから」が多くなっています。



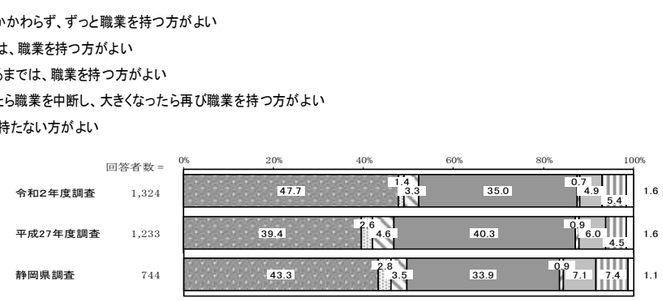
◆仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）【問26】

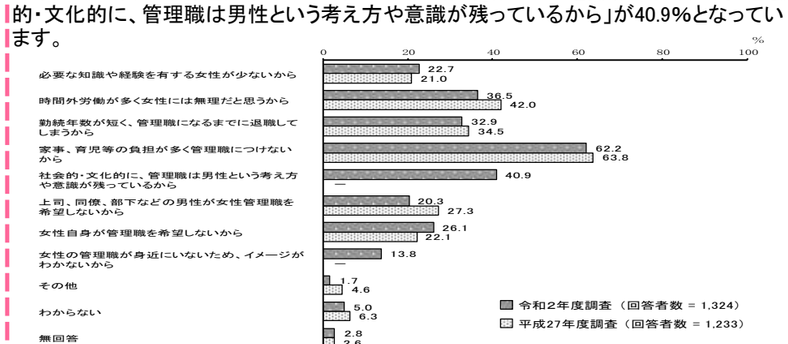
理想は、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」が全体で30.3%と最も高くなっています。現実は、男性で「『仕事』を優先」、女性で「『家庭生活』を優先」が最も高くなっています。



◆女性が職業を持つことについての意識【問27】

「結婚・出産にかかわらず、ずっと職業を持つ方がよい」が47.7%と最も高く、次いで「子どもができたら職業を中断し、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」が35%となっています。



◆女性の管理職が少ない理由【問31】

「家事、育児等の負担が多く管理職につけないから」が62.2%と最も高く、次いで「社会的・文化的に、管理職は男性という考え方や意識が残っているから」が40.9%となっています。